

October 15, 2021

【前日の為替概況】ドル円 日米金利差拡大観測で 113.72 円まで堅調推移

14 日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は 113.68 円と前営業日 NY 終値 (113.25 円) と比べて 43 銭程度のドル高水準だった。米国株の大幅上昇を受けて円売り・ドル買いが先行。米連邦準備理事会 (FRB) によるテーパリングの年内着手や 2022 年中の利上げ開始の可能性が意識される一方、日銀の金融政策正常化は見込めないため、日米金融政策の方向性の違いに着目した円売り・ドル買いも出やすかった。24 時前に一時 113.72 円と日通し高値を更新した。

なお、良好な米企業決算が相次いだことから、ダウ平均は一時 540 ドル超上昇した。9 月米卸売物価指数 (PPI) が予想を下回ったことで、過度なインフレへの懸念が後退したことも買い安心感につながった。

ユーロドルは小幅続伸したものの、NY 市場では上値の重さが目立った。終値は 1.1597 ドルと前営業日 NY 終値 (1.1594 ドル) と比べて 0.0003 ドル程度のユーロ高水準。欧州序盤に一時 1.1624 ドルと日通し高値を付ける場面もあったが、1.16 ドル台では戻りを売りたい向きが多く次第に弱含んだ。ユーロ豪ドルなどユーロクロスの下落につれた売りも出て、一時 1.1584 ドルと日通し安値を更新した。市場では「独長期金利がこの 2 日間で急低下していることも意識された可能性がある」との指摘があった。

なお、パーキン米リッチモンド連銀総裁は「FRB はテーパリングを円滑に開始するための道筋を確保したが、利上げが適切かどうかを判断するにはまだ時間がかかる」と述べたほか、デイリー米サンフランシスコ連銀総裁も「テーパリング着手に十分なほどの進展が見られたが、利上げを検討するのは時期尚早」との認識を示したが、相場の反応は限られた。

ユーロ円は 6 日続伸。終値は 131.83 円と前営業日 NY 終値 (131.30 円) と比べて 53 銭程度のユーロ高水準。米国株相場が大幅に上昇したことを受けて、投資家のリスク志向が改善すると円売り・ユーロ買いが強まった。5 時 30 分前に一時 131.86 円と 7 月 6 日以来約 3 カ月ぶりの高値を付けた。ただ、ユーロドルやユーロクロスが下落した影響で上昇のスピードは緩やかだった。

【本日の東京為替見通し】大手中国不動産会社のドル建て債償還に要注目か

本日の東京外国為替市場のドル円は、NY 株式市場と WTI 原油先物価格が上昇していることで堅調推移が予想されるものの、米 10 年債利回りが 1.51% 台に低下していることで上値は限定的だと予想される。

WTI 原油先物価格は、石油輸出国機構 (OPEC) 加盟国とロシアなどの非加盟国で構成する「OPEC プラス」に対する増産拡大要請を、主要産油国のサウジアラビアが拒否したことで 81 ドル台まで上昇した。

本日は、大手中国不動産会社のドル建て債の償還 (2 億 2900 万ドル) が予定されている。利回りがベンチマーク金利を 10 ポイント以上上回る債券「ディストレスト債」のドル建て債 1390 億ドルの内、46% の 640 億ドルが中国不動産セクターの社債となっている。業界大手の中国恒大集団は、これまで 3 回の社債利払いを怠り 30 日間の猶予期間に入っており、来週 18・19 日にデフォルト (債務不履行) を宣言する可能性が警戒されている。花様年控股集团はデフォルトに陥っており、本日の大手中国不動産会社の償還が履行されるか否かも警戒されている。

また、クォールズ FRB 副議長の任期が 13 日に満了となったことで、次期副議長の人選やパウエル FRB 議長が続投なのか、それとも 3 名のメンバー、カプラン米ダラス連銀総裁、ローゼングレン米ボストン連銀総裁、クラリダ FRB 副議長の倫理規定違反に対する監督責任から交替となるのか要注目となる。4 年前の 2017 年の 10 月 19 日は、トランプ第 45 代米大統領がイエレン第 15 代 FRB 議長に替えてパウエル FRB 理事を第 16 代 FRB 議長に指名する、という報道が流れていた。

また、本日 10 月 15 日は、半期に一度の米財務省による為替報告書が議会に提出される予定。4 月分同様、為替操作国の認定はない模様だが、米国の対中、対日貿易赤字が拡大傾向にあり、米国と中国は、今月から第 1 段階通商合意の履行状況の検証と一部の未解決問題についての協議を開始していることで要注目か。

ドル円のオーダー状況は、上値には、113.80 円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、114.00 円と 114.10 円にドル売りオーダーが控えている。下値には、113.20 円にドル買いオーダー、113.10 円割れにはストップロス、113.00 円にはドル買いオーダーと本日の NY カットオプションが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 13:30 ◇ 8月第三次産業活動指数（予想：前月比▲1.2%）
- 未定 ◇ 10月月例経済報告

<海外>

- 07:00 ◎ ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁、講演
- 15:45 ◇ 9月仏消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比▲0.2%/前年比2.1%）
- 18:00 ◇ 8月ユーロ圏貿易収支（予想：季節調整前161億ユーロの黒字/季節調整済142億ユーロの黒字）
- 21:30 ◇ 8月カナダ卸売売上高（予想：前月比0.5%）
- 21:30 ◎ 10月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：27.0）
- 21:30 ☆ 9月米小売売上高（予想：前月比▲0.2%/自動車を除く前月比0.5%）
- 21:30 ◇ 9月米輸入物価指数（予想：前月比0.6%）
- 23:00 ◇ 8月米企業在庫（予想：前月比0.6%）
- 23:00 ◎ 10月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：73.1）
- 16日 00:45 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 16日 01:20 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、パネルディスカッションに参加
- 国際通貨基金（IMF）・世界銀行年次総会（ハイブリッド形式、ワシントンDC、17日まで）
- インド（ヒンドゥー教ダシエラ祭）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

14日 05:28 黒田東彦日銀総裁
「世界経済は回復を続けている」
「インフレは一時的なもの」
「新型コロナデルタ株流行などで一部の新興国に下押し圧力が継続している」

14日 07:09 デベル RBA(豪準備銀行)副総裁
「豪気候リスク、外国人投資家も注視」
「気候変動、金融システムにとって一番のリスク」
「豪債券や株式への投資家の意欲、今のところ明らかな変化ない」

14日 09:05 ボウマン米連邦準備理事会(FRB)理事
「緩和政策を続ければ、インフレ期待へのリスクに」
「債券買い入れの縮小は年内開始を支持、11月が望ましい」
「資産買い入れ、今では恩恵よりもコストのほうが大きい」

14日 09:37 バスカンド RBNZ 副総裁
「デルタ株は引き続き成長見通しの重し」
「回復は予想よりもはっきりしている」

14日 10:41 野口・日銀審議委員
「現状の金融緩和措置、粘り強く継続していくことが再重要」
「感染収束しても、2%物価目標実現にめどをつけ緩和縮小までには相応の時間を要する」

14日 12:51 易綱・中国人民銀行(PBOC)総裁
「中国のインフレは全般緩やか」
「穏健な金融政策は柔軟性を備える」

14日 16:47 サウジアラビア・エネルギー相
「ガス、石炭市場は協調する必要がある」
「石油輸出国機構(OPEC)プラスの使命は石油供給の安全性を確保すること」

14日 16:54 ノヴァク露石油相
「ロシアは原油増産には問題はない」
「原油の増産は市場の状況による」
「ロシアには十分な原油がある」

14日 18:36 テンレイロ英金融政策委員会(MPC)委員
「インフレは一時的のはずだ」

14日 19:12 ラガルド ECB 総裁
「インフレ上昇は主に一時的な要因で引き起こされている」
「供給のボトルネックが長引くと、価格圧力はさらに持続する可能性」
「ユーロ圏の成長見通しを取り巻くリスクは、概ね均衡している」

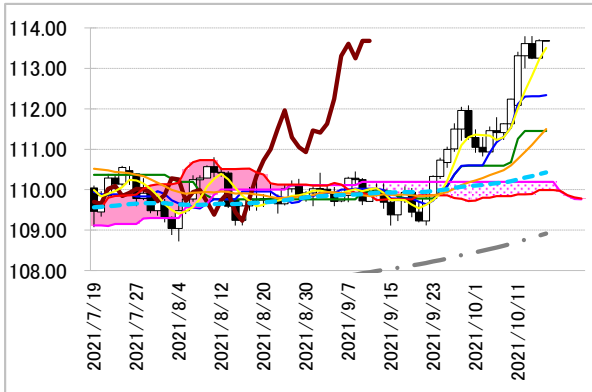
14日 22:37 ブラード米セントルイス連銀総裁
「高水準のコア PCE インフレを懸念」
「労働市場は非常にタイト」
「米国経済に対する私の見通しは依然として非常に強気」

15日 01:12 キャサリン・マン英中銀金融政策委員会(MPC)委員
「世界的なサプライチェーン危機を警戒しながら、政策金利の引き上げを待つことはできる」

15日 02:06 バーキン米リッチモンド連銀総裁
「テーパリングが近く正当化される可能性があるという9月のガイダンスはFRBの事前警告だった」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

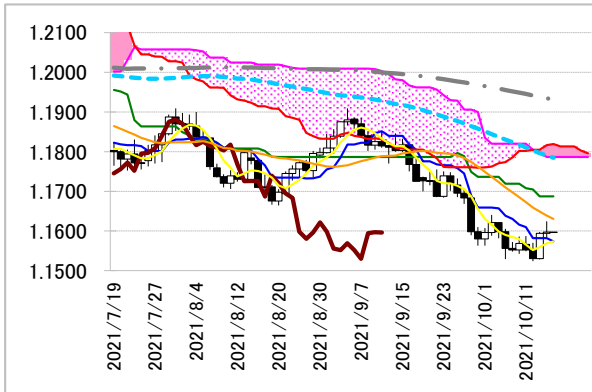


<ドル円=10/12 安値 113.00 円を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。抱き線で切り返し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月12日の安値 113.00 円を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	115.51(2017/3/10 高値)
レジスタンス 1	114.55(2018/10/4 高値)
前日終値	113.68
サポート 1	113.00(10/12 安値)
サポート 2	112.34(日足一目均衡表・転換線)

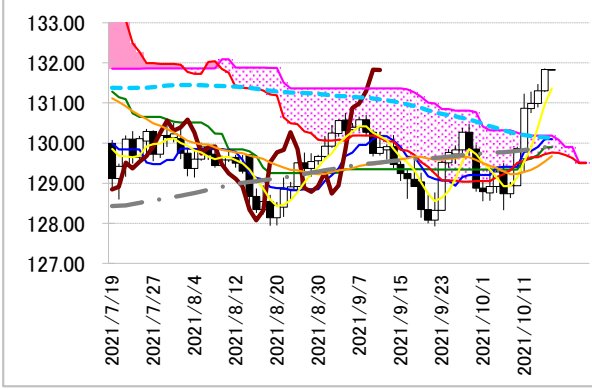


<ユーロドル=10/12 安値を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、2手連続陽線で反発して、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月12日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1688(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1597
サポート 1	1.1524(10/12 安値)

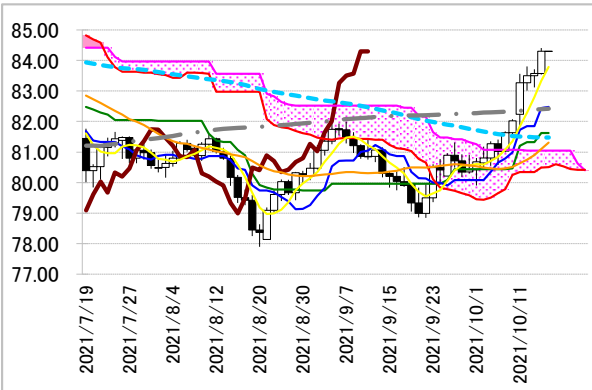


<ユーロ円=10/14 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。6手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月14日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	132.70(6/23 高値)
前日終値	131.83
サポート 1	131.27(10/14 安値)



<豪ドル円=10/14 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。6手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月14日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	85.80(5/10 高値)
前日終値	84.30
サポート 1	83.54(10/14 安値)

